



『「感謝」を大切にすることで』

石川県
羽咋武道館
小学5年生

中越優里

「剣道は剣の理法の修練による人間形成の道である」私が毎週木曜日、大人の人たちと一緒にけい古している羽咋武道館にかかげられている言葉だ。剣道を始めたころはそんな言葉の意味なんて考えたこともなかった。

私が、剣道をやり始めたのは、3年生の春。父が中学校の剣道部の先生をしていたので、剣道には以前から興味を持っていた。弟もやってみたくて言っていたので、一緒に剣道教室に入った。すり足を最初に習った。最初に習ったので、剣道の中で一番大切な練習なのだろうと思ったことは今でも覚えている。剣道着を着てはかまをはき、防具もつけるようになった。慣れるまでは大変だったけれど、上級生と同じ格好ができるのはうれしかった。

試合にも出られるようになり、私には、目標となる選手ができた。全国大会にも出ている選手だ。その人は、保育園のころから剣道を習っていて、私とはレベルが全然違う。どうしたらそんな選手になれるのだろう。目標とする選手ができたことで練習に今まで以上に集中できるようになった。

剣道教室では、感謝の気持ちを持つようにとよく言われる。相手がいるから剣道ができる。送りむかえしてくれるお家の人がいるから剣道ができる。たくさんの人にお世話になっているから剣道ができる。具体例をあげて先生はよく話して下さる。最初は「感謝」の気持ちをあらわす「ありがとうございました」という言葉をなかなか言えなかった。しかし、最近は剣道教室だけでなく、いろいろな場面で「ありがとうございました」が言えるようになってきた。剣道を始めたことで以前よりも自分という人間が少しレベルアップできたような気がする。

そんな時に目に入ってきたのが羽咋武道館の「剣道は剣の理法の修練による人間形成の道である」の言葉だ。羽咋武道館に通い始めたころは全く気にならなかったが、剣道を続けていくうちにどんな意味なのか気になってきた。もしかしたら剣道をすることで自分自身を成長させることができるということなのかもしれない。そこで、全日本剣道連盟のホームページで意味を調べてみた。私にとって難しい言葉ばかりであり意味が分からなかったが、「礼節」という言葉が目についた。剣道の先生が言われる「感謝」という言葉の意味と「礼節」は、つながっているような気がした。剣道を通して、その教えの通り「感謝」の気持ちを大切にすることで、自分をレベルアップでき、強い選手になっていくことが可能になるのではないか。強い選手とは、試合に勝てるだけでなく、きっと一人の人間として立派な人間のことだ。「人間形成の道」という言葉からそんなこともイメージした。

今の自分はまだ目標としている選手には勝てないかもしれない。しかし、いつでも誰に対しても「感謝」する心を持ち続けることで、私はもっと強い選手になれると信じている。だから、「剣道は剣の理法の修練による人間形成の道である」というこの言葉のもと、剣道の練習にはげんでいる。

私は剣士としても、一人の人間としても、まだまだ足りないところがたくさんある。しかし、これからも剣道を続けていくことで、私を成長させていきたい。そして、私を支えてくれているすべての人に、「感謝」の気持ちをしっかりと伝えられる、そんな人間になりたい。